

ソーシャルスキルトレーニングVR



User's  
Voice  
vol.14



# FACE DUO



東邦大学 医療センター 大森病院  
統合型地域精神科治療プログラム「イルボスコ」

## 標準的な社会認知トレーニングの普及を期待して

近年、精神疾患の方の治療、支援において症状的な回復だけでなく社会的リカバリーやパーソナルリカバリーが重要視されています。しかし、統合失調症患者を対象にした報告では、約16%の方しか、リカバリーが達成できていないと言われています。うつ病や不安症、自閉スペクトラム症など発達障害についても同様に社会認知が社会機能に影響することが報告されています。一方で社会認知トレーニングの実施は支援者の熟練したスキルが必要であり、実施は難しいと考えています。感情認知トレーニングVRは社会認知の専門家監修による構造化されたプログラムで、VR上のセラピストが進行していくため、スタッフの経験にとらわれず実施が可能です。本システムとともに標準的な社会認知プログラムが全国の医療機関、福祉施設にて実施されることを期待しています。



精神神経科  
教授 根本 隆洋 先生

## イルボスコの役割（早期介入・社会復帰を目指して）

精神疾患は思春期、青年期に好発することが知られており、この時期が成長・発達の過程にある重要な時期にあたります。この時期に社会的に孤立することを防ぎ、早期に適切な介入を行う必要があります。当院、デイケアは2007年5月に大規模として認可をうけ、若者に受けられやすい治療施設とすべく「イルボスコ（イタリア語で“森”の意）」と命名しました。対象者は年齢15～30歳で、精神科医師、公認心理師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士といった多職種により介入を行っています。プログラムは認知機能の改善を促すことと、若者が飽きずに継続できる内容とすることを配慮し、利用者の社会参加・復帰のための支援を行っています。



## 社会認知とは社会機能障害の決定因子のひとつ



認知機能は、大きく分けて神経認知 (neuro cognition) と社会認知 (social cognition) に分けることができます。神経認知は処理速度・ワーキングメモリー・記憶・遂行機能などを含みます。それに対して社会認知は、他者の意図・構え・行動などの社会的情報に対する「知覚」「解釈」「反応」という、社会的関係性をかたち作るのに必要な一連の心のはたらきといえます。つまり、人が他者を理解し、効果的に関わり合うために必要なスキルです。社会機能と神経認知

および社会認知の関係ですが、社会機能障害の決定因子として認知機能の障害があることがわかっています。当初は主に神経認知について検討されてきましたが、近年では対人関係に関する情報処理能力、つまり社会認知がより重要でないかと考えられるようになってきました。

## 社会認知の主観的困難感にきづくために問診が必要

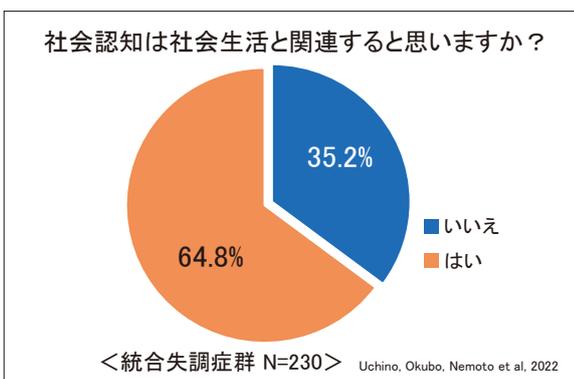
リハビリに大きく関連する社会認知（人が他者を理解し、効果的に関わり合うために必要なスキル）の向上に向けては精神科リハビリテーションが有用です。しかし、社会認知に関する検査や治療を受けている方は極めて少なく、臨床現場では十分普及していないのが現実です。我々の調査では、統合失調症の方が社会認知に関して強い主観的困難感を抱えていることがわかりました。社会認知に対する主観的困難感を把握するためには丁寧な問診が必要と考えています。社会認知の障害は表現しづらいため、当事者から打ち明けることは少ないと思います。「相手の感情が読み取れずに困った経験ありますか」と伺うと困った経験があるという当事者も少なくありません。社会認知に対して、困難を感じている方のために標準的な治療プログラムを提供できる体制が必要と考えます。



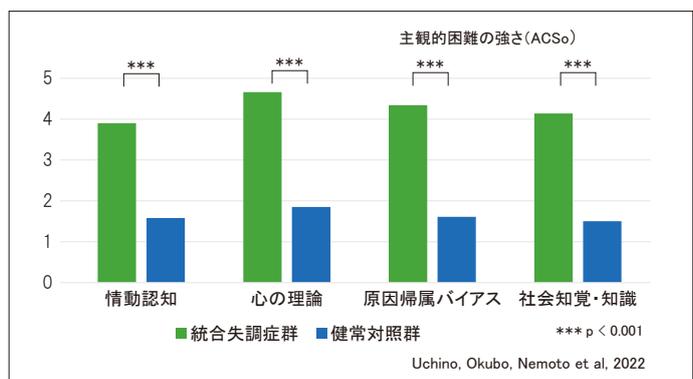
内野 敬 先生

## 統合失調症患者における社会認知の認識調査

### 社会認知に関する認識



### 社会認知に関する主観的困難の比較



本調査において「社会認知」の定義は、「他者の意図や感情を理解する人間としての能力を含む、対人関係の基礎となる精神活動と定義され、たとえば、相手の顔や声色から感情を読み取ったり、相手の意図を推測したりする際に関連する脳の機能を指す」とし、質問の回答前に提示した。

## FACEDUOの導入について

2024年1月よりFACEDUO（ソーシャルスキルトレーニング、SST）プログラムを開始し、2024年4月よりFACEDUO（感情認知）トレーニングプログラムを開始しました。イルボスコにおいては以前、SCIT（Social Cognition and Interaction Training）を実施していましたが、認定資格を持つ心理士の異動もあり、プログラムを中断していました。またSCITの表情認知トレーニングにおいて表情のイラストを掲示して議論を行っていましたが、顔の表情や仕草を理解するのに2Dでは当事者の理解も限定的であると感じていました。



社会認知のトレーニングの中で感情認知のトレーニングははじめのステップであり、理解度をあげ、楽しみながら参加をしていただく必要があると考えます。VRと映像を用いることでリアルに相手の感情による表情、しぐさ、言葉を体感することが可能となります。感情認知トレーニングは6つの基本感情（喜び・悲しみ・怒り・驚き・嫌悪・恐怖）を「4つのステップ」で、段階的に学びます。Step. Dは感情に対しての共感の方法を練習できます。相手の感情に合わせた対応を学ぶことができるのはFACEDUO感情認知トレーニングのオリジナルです。

### FACEDUO感情認知トレーニング（4つのステップ）

Step.A 感情を表す言葉



Step.B 感情の表情



Step.C 感情の声・仕草



Step.D 感情への共感



## リアルな映像は感情の理解を助ける

前回の振り返り



2択のクイズをみんなでおこなってます



当施設の感情認知トレーニングは1年かけて学んでいくプログラムです。イルボスコでは学習効果が期待できるプログラムの参加者には「イルボスコポイント」といった点数を参加者に付与し、一定のポイントを取得された方を表彰しています。参加者からは「普段考えられない相手の感情や言葉の意味、表情や仕草をまじめに考えることができた」と前向きな意見も聞かれますし、実際に鏡をみて眉を動かしたり、表情をつくってその場で練習をしています。熱心に手帳にメモを取りながら、参加されている方もいます。支援者としてはマニュアルに沿って進行ができるため、簡単に実施ができますし、セッション中はメンバーの観察に徹することができるのも利点です。

## 実際のセッションの風景（各回60分）

イルボスコでは、VRを利用したセッションを1回60分で実施しています。FACEDUOには、VRコンテンツだけでなく、前後で利用者が記載するアセスメントのシートもありますので、下記のような流れでセッションを組んで実施しています。



- 前回の「喜びへの共感」を振り返ります。
  - それぞれの利用者の日常の学習が参加者の学びにつながります。
  - 感情ごとの特徴を対比することで理解が深まります。
- 
- 今回のテーマは「怒りの感情言葉」になります。まずは「怒り」とは何なのか？怒りの場面ではどのような発言をするのか？怒りを表す言葉などをワークシートを使って学習します。
- 
- ゴーグルをつけて体験、それ以外の方はスクリーンで映像を視聴します。
  - 感情が動いた場面や表情や仕草の場面はその場で止めて、ディスカッションします。
  - 2択のクイズにはみんなで挙手して、全員参加型で行います。
- 
- 支援者は学習者の理解度やモチベーションを確認します。
  - 利用者さんも時間内で終わらせられるようになってきました。
- 
- 利用者さんには怒りの感情をテレビで見たりしたら、その言葉をメモに残すように宿題を出します。



## SST-VRとの組み合わせで多様な支援が可能に

感情認知のトレーニングは、ソーシャルスキルトレーニングや神経認知トレーニング、他の社会認知トレーニングなどと組み合わせることで柔軟に物事に対応するスキルを獲得することができますと考えています。

また若者にはVRを通じたトレーニングというのは新規性があり、興味をもってもらっています。



感情を読み取る力を鍛える

機能の障害に対するアプローチ



対人コミュニケーションスキルを学ぶ

行動の障害に対するアプローチ

イルボスコの利用者には今後仕事をしてみたい、アルバイトをしてみたいと話される方も多いです。これまで就労経験が無く、実際のオフィスの場면을想像することが難しい方もいますが、SST-VRの仕事編はオフィスやアルバイトにいる場면을体験しながら練習できます。面接編も実施してみたいとの声も多くあがっています。



詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造

JOLLY GOOD!

2024年11月作成  
FD2411008